



札幌東支部

岩崎 公治  
Koji Iwasaki

日曜日の午後6時、私は国境の長いトンネルを通過することもなく、特急スーパー大空に乗り1時間、普通列車に（写真上）15分揺られて、思いのほか、あっけなく冬の夕張市南清水丘の駅に降り立った。

事前に予約したホテルから、「日曜日は休みなので食事は出来ません」と言われ、行く前から多少へこんだ状態で駅から暗い街を歩いていると、さすがに焦燥感は強くならざるを得ない。

事前に用意されていた鍵をもらって部屋に入り、私はとりあえず、明日からの仕事に備えるため準備万端気合を入れて床についた。

宿の主人は、実はなかなか気さくな方で、寒いなかわざわざ私を毎朝相談会場（写真下）まで送り届けてくれたため、意外と簡単にやる気が出た私は用意してあったパソコンにより案外楽しく仕事をすることができた。

宿の主人の話によると、夕張線が廃止になるため、鉄道マニアの方が根室線に乗った後にこちらを訪れたこともあったそうだが、私がいた間は工事の関係者の皆様ぐらいで特に目新しいものは無い。

そんな話を聞きながら、結局は部屋でパソコンをいじりながらビールを飲んで3泊を過ごし、普段家でやっていることと代わり映えはしないなと思いながら時間を過ごしていった。

お客様も、年金の申告が主体で特に印象的な話もないのだが、帰りに職員から「市の財政破綻の際は職員が半分以下に減り、確定申告ができる者がいなくて当時はどうなるかと思った。」という話を聞いて少しは役に立てて良かったと思えたのであった。

人口減少の続く中、多額の借金を抱える街としての報道しか伝えられないが、でも宿の近くで見つけたカレー屋さんで障害者の方が楽しそうに働いているのは多少なりとも微笑ましく感じられる想いが残った。

来年はまだ夕張線も残っているはず？ですから○○マニアの方などいかがですか。

